

“aggressive”について

“aggressive tackle”という用語が短絡的に「攻撃的タックル」と訳されて使われました。言語的ものの意味はともかくとしてラグビー用語としての中身について誤解があれば危険につながる恐れがあるものです。最近“aggressive attacking Rugby”という用語が新聞紙上に見られました。改めて“aggressive”を単に「攻撃的」と考えることについて問題点を考察しましょう。

tackle は seize and stop (捕えて止める) という意味の言葉です。ボールを持って前進してくる相手を捕える時に「攻撃的」であるということが相手を痛めつけやっつけるという中味や感情を表すものならばスポーツとして正当であるとは言えません。「攻撃は最大の防御」とは一般に言われるものですが、ラグビーでは防御が攻撃のつながる局面の多いことから防御を起点にして考える場合があります。それはボールを後方にパスしなければならないという基本プレーのルールによる有用な考え方です。attack は fall upon (攻撃する、ぶつかる、勇ましく始める) という意味の言葉で確実に相手を止めるタックルは aggressive tackle と言うべきものです。

aggressive は単なる「攻撃的」という意味ではなく、タックル後に味方が劣勢になることを防ぎ「攻撃に出る」ことを目指し、その筋道をつける労作が含まれているのです。相手がボールを持って前進してくるのをじっと待ってはいけません。相手と身体が接触する時に不安や迷いから弱々しいのはいけません。不安や迷いは事故の元にもなります。プレーヤーのモチベーションを越えた指導者の過度の言動は禁物です。aggressive tackle への道筋を RFU のラグビー検定では次のように設定しています。

| | | |
|----|----------|---|
| 初級 | フロントタックル | 前方の相手と斜めに角度をとって大腿部に肩を当てる |
| 中級 | リアタックル | 後方より追いかけて相手の脚部に肩を当て捕まえる |
| 上級 | スマザータックル | 真正面の相手に一旦肩を当ててから引くようにして相手の力を利用するように捕まえて倒す |

フロントタックルについては西川ラグビーコラムで詳しく取り上げました。

http://park21.wakwak.com/~nishikawa_colum/column/PDF/20040515.pdf

http://park21.wakwak.com/~nishikawa_colum/column/PDF/20051212.pdf

フロントタックルと一口に言っても相手のコースの読み方、角度の取り方、間合いの取り方などのより捕まえた後のラック・モールの情勢に影響が大きいものです。以上のことを練習してゲームでボールキャリアを始め周りの状況を考えてタックルすることで味方攻撃に反転できるタックルが aggressive tackle です。

後記

tackle は seize and stop 捕まえて止めることです。ボールを持って走ってくる相手をボールもろとも両腕の外側から包み込んで捕まえてプレー出来ないようにするタックルも以前は巧妙正当なものでした。しかし強く激しいことが強調され過ぎた結果プレーヤー達はより激しくぶつかったり、腕に力を入れて固くして相手に当たったり、腕を首にまわしたりしましたので危険な stiff-arm tackle(腕を固くしたタックル) は禁止されるようになりました。

power と flair を大切な糧として進化してきたラグビーがより楽しく安全なものであるように改めて、3つのルールの意思を復習する必要があります。

- ・ equal condition 公正・公平、
- ・ open play オープン展開を継続する
- ・ safety 安全第一、相手を認め事故防止をつとめる

過去に色々と冠が付いたラグビースタイルがありましたが、チーム内同志で冠をつけることは問題ありませんが、広く一般的に用語としての冠は影響の大きいものですが、 “aggressive attacking Rugby” については正しいイメージで使われねばならないと思います。